東北支部の活動について

南 正昭 岩手大学

1. 東北支部の運営

2023年度の東北支部総会は、4月15日に東北大学災害科学国際研究所の多目的ホールに於いて、リモートを兼ねたハイブリッド形式で開催された。

2022年度の支部活動報告、決算報告、2023年度役員人事、活動計画、予算計画について諮られ、審議を経た上ですべての議題について了承が得られた。

東北支部において、支部長1名、副支部長2名、幹事7名からなる幹事会が支部運営の舵取り役となり、9名からなる総務企画委員会が年間を通しての支部活動の推進役となって事業の実施に当たっている。総務企画委員会の委員長と副委員長は、幹事を兼ねており、幹事会と総務企画委員会が一体となって、支部の運営・活動が継続されてきた。

東北支部は、青森県から福島県、新潟県に至る7県から構成されている。学会活動の中核を担う大学も各県にあり、広大な東北地方に分散して存在している。この距離の遠さにも拘わらず、総会や幹事会、見学会などの企画においても、各県からの参加があり、支部の運営・活動が支えられている。東北支部創設以来、支部役員・会員の相互尊重の理念の下、堅実な支部活動を維持継続してきたこの支部の在り様は、これまでの支部役員諸先輩の知恵と実行、支部会員各位の積極的なご参画によるもので、改めて現在の東北支部に関わる皆さんとともに、重く感謝をもって受け止め、さらなる継承、発展につなげたい。

2. 東北支部の活動

2022年度の支部活動を振り返ると、東北支部が目指すものが、自ずから浮かび上がってくる。東北の都市へのこだわりにはほかならない。まだ明確に定義されるには至っていないものの、それぞれに個性を持ちながら、東北という地理的、歴史的背景を共有し、そこに共通する都市の性格を読み取りながらの議論は、いつも興味深く刺激的でもある。

旧制中学時代に盛岡で、その後、旧制第二高等学校に学んだ石川栄耀の残した言葉「社会に対する愛情、これを都市計画という」は、この東北の地において、しっかりと受け継がれているように思われる。厳しい自然環境の上に築かれ繋がれてきた故に、都市へのこだわり、愛着もまた一層強いように見受けられる。そのことが東北支部のアイデンティティを、既に形成しているようにも思われる。

前回の2022年度の総会以来の主たる支部活動を概観すると以下のようである。

◇2022年4月2日 講演会

「東北の都市計画・まちづくり」

基調講演「東北の都市計画に宿る光一真のまち育てへー」
北原啓司（弘前大学大学院教授）

基調講演「地方都市の都市計画にこだわってー東北支部を中心にー」中出文平（長岡技術科学大学大学院教授）
その後、議論。

◇2022年7月16日 講演会

「地方都市のまちなか再生の取り組み～中心市街地の再生の展開とこれから～」

新潟市（宮崎博人／新潟市都市政策部政策監）

長岡市（西野靖雄／長岡市中心市街地整備室まちなか政策担当課長）

酒田市（土井 勝／酒田市企画部都市デザイン課課長）

その後、議論。

◇2022年11月5日 講演会、見学会

盛岡の都市構造（盛岡市都市整備部長 小笠原裕光氏）

盛岡バスセンター公民連携事業

盛岡市の立場から（盛岡市都市整備部次長 滝村敏道氏）

民間の立場から（(株)盛岡地域交流センター戦略事業部長 菅原隆彦氏）

現地見学会 赤レンガ館、莫座九、紺屋町番屋、肴町商店街、バスセンター

その後、議論。

◇2023年3月5日 東北支部研究発表会

東北の都市を対象とした、多数の研究発表。

3. 東北支部のこれから

2023年度総会においては、本年度の活動計画が示され、了承された。また1年、東北の都市を巡り議論する、楽しい活動が予定されている。

総会后、講演会「パリの「15分都市」構想」秋田典子教授（千葉大学大学院）を開催した。パリ滞在のご経験に基づき、その現況から、都市計画の歴史についてのご講演をいただいた。

その後の議論においても、足元の東北の都市との比較が見え隠れしたことは印象的で、微笑ましくもあった。

広大な東北地方に散在し、寒冷地において小さく結晶化した都市の魅力を共有し、理解を深め将来につなげる場として、東北支部の活動が発展することを願ってやまない。